

研究構想シート	学校名	松江市立大庭小学校
	氏名	三島麻美
A 研究主題 「選ぶ」学び ～ルーブリックを生かした 個別最適な学びにおける指導の工夫～		
B 研究の目的 自分の意欲を自ら引き出したり、目的やそのときの状況に応じて適切な方法で学習したりできるような「自立した学習者」を育てるための、個別最適な学習と協働的な学びの一体化した充実を目指し、本校の児童に適した指導方法を明らかにする。		
C 子どもの実態	E 手立て・内容（研究仮説）	D めざす子どもの姿
	F 検証方法	
	G 研究計画	
<p>○初見の文章を正しく読む、言葉の意味を調べる等の基礎的な学力が十分に身につけていない。</p> <p>○書いてあることを読み取る力はあるが、それをもとに自分の考えをもったり、他者と話し合ったりすることが難しい。</p> <p>○学力差が大きく、同じ時間で取り組める学習にも差がある。</p> <p>○学習意欲を持続させることが難しい子どもが多く、細やかな評価・評定が必要である。</p>	<p>〈仮説①〉 子どもが課題の選択や自己調整を行う場と方法を設定すれば、自分の課題を自ら選択し、最後まで課題に取り組む子どもが育つだろう。</p> <p>〈仮説②〉 単元の前半で基礎的・基本的な学習を丁寧に行えば、単元の後半では探究的な学習に主体的・対話的な学習に取り組む子どもが育つだろう。</p> <p>○指導の評価基準を明確にし、ルーブリックを活用して提示することで、子どもたちが学習に見通しをもつとともに、課題の自己調整を行いながら課題に取り組めるようにする。 ○学年ごとに重点単元を設定し、学習内容に適したICTの活用の仕方を合わせて指導する。 ○重点単元は「つかむ」「深める」「まとめる」の3段階に分けて指導し、各段階ごとにルーブリックを作成する。「まとめる」段階では協働的な学びにつながる評価基準を設定する。</p> <p>○子どもの実態と身につけさせたい力を各学年で考え、系統的な指導法を検討する。 〈1学期授業研究〉 ・各学年で、複数の教科でルーブリックを作成し、授業実践からよりよい形式や評価基準を検討する。 〈2学期授業研究〉 ・重点単元の研究授業を通して、単元を通じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながる指導方法や評価基準について検討する。 〈3学期授業研究〉 ・2学期の研究授業の考察をもとに、各学年で授業を実践し、振り返りを行う。</p> <p>○自分の課題を設定し、最後まで学習に取り組める子ども。</p> <p>○他者と協力したり、話し合ったりしながら学習課題に取り組める子ども。</p> <p>○ICTを適切に活用しながら学習課題に取り組める子ども。</p>	